



平成28年2月25日
内閣府（防災担当）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（第4回） 議事概要について

1. 検討会の概要

日時：平成27年11月30日（月） 10:00～12:00

場所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：阿部座長、入倉委員、岡村委員、佐竹委員、橋本委員、平川委員、古村委員、
三宅委員、産業技術総合研究所 澤井主任研究員

2. 議事概要

日本海溝・千島海溝沿いの地震による津波堆積物に関する調査結果等について平川委員及び産業技術総合研究所 澤井主任研究員から話題提供を行った後、議論を行った。

概要は、次のとおり。

- 最大クラスの地震を設定するにあたっては、東北地方太平洋沖地震の教訓を踏まえ、想定外の被害が発生することのないよう、津波堆積物や海底地形などの様々な科学的知見を用いて、あらかじめ想定しておくことが重要となる。
- 津波堆積物を用いて津波の規模を推計する際には、年代の特定が最も重要となる。年代の特定に誤差が大きいと、複数の津波を1度に生じた津波と判断してしまうおそれがあるため、年代の推計にどの程度の信頼性があるかといった科学的な根拠も示す必要がある。
- 津波堆積物の年代の特定には、年代が特定されている大規模噴火による火山灰の層を活用することもできる。
- 津波堆積物の調査結果を活用するには、津波発生当時の地形の復元が課題となるため、地殻変動に伴う土地の隆起・沈降を整理する必要がある。
- 堆積物が確認された地域における津波の浸水深をどのように評価するかについては、東北地方太平洋沖地震の解析結果を含めて整理する必要がある。
- 最大クラスの地震の考え方については、地震調査研究推進本部の事務局と連携して、検討を進めることが重要である。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当企画官 森本 輝

同参事官補佐 池田 雅也

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-6820